

活動報告書

「人類共存のための超宗教による
協働—多言語による広島・長崎の
本のデータベースの作成と公開」

組織名 多言語で読む広島・長崎の会

助成 庭野平和財団

コード番号 15-A-352

期間 平成27年11月1日～平成28年11月1日

1. 活動の目的

広島と長崎が被爆して70年が経過した。米ソ冷戦後に核兵器削減が進んだとはいえ、2014年8月現在、地球上には今なお16,400発を超える核弾頭があり、人類のオーバーキルの状況は変わっていない。世界各国で、政府を強く揺り動かし、人間の安全保障を推進させることのできる厚い市民層を形成することが緊急の課題である。

当プロジェクトは、2005年に多国籍・多宗教のボランティアで行った **Stonewalk Japan 2005**^(注1) の精神を継承する平和行動である。私たちが現在取り組んでいる、多言語による広島・長崎の本のデータベースの作成と公開のためのプロジェクトが、多様な言語や宗教の壁を乗り越えて協働した、国際的平和活動の事例として位置付けられることを期待する。

核兵器廃絶への歩みは遅く、混迷した世界が抱える課題に取り組むために、私たちは二つの具体的な方法を提案する。一つは、広島・長崎への原爆投下に関する本が、世界中のすべての言語でどれだけ出版されたのかを確認し、広めることである。言語別の冊数で言えば、英語による出版件数が一番多く、広島・長崎の被爆の実相を主として世界の知識層に伝える一定の役割を果たしたと言える。しかし、核兵器廃絶という人類全体の目標を草の根にまで浸透させるには、多様な言語で被爆の実相を伝える必要がある。外国語を使用しない人は多いが、人は必ず自分の母語を持っている。読者が自分の母語で被爆の実相を知ることの意義は計り知れない。二つ目の方法は、異なる文化・言語・宗教を持つこのプロジェクトのチームメンバーによる協働が、「ヒロシマ・ナガサキを繰り返すな」という理念を行動として実践する事例になることである。人間の安全保障を得るためには、メッセージを心の奥深くに伝えることができる母語と人間の倫理観を醸成する宗教が重要な役割を果たすと私たちは考えている。

活動の成果は、オンラインのデータベースとして世界に発信していく。チームは、2名の総括担当者（中村朋子、ウルシュラ・スティチェック）、5名の助言者（プロジェクト計画、英文校正、文学・医学・科学関係文献の監修）と24種類の言語に対応できる述べ34名の協力者グループで構成する。

2. 活動の内容と方法

2015年から2016年の活動の内容は、広島・長崎への原爆投下に関する本が、世界中のすべての言語でどれだけ出版されたのかを検索し、文献リストを作ることであった。

いわゆる「原爆文献」を特定することは容易ではない。インターネットによる検索では「**Hiroshima**」「**Nagasaki**」「**atomic bomb**」をキーワードとし、本の題名または副題にこれ

(注1) 被爆60年に、述べ千人の異宗教のボランティアが原爆犠牲者を悼むため、長崎—広島間を1トンの碑石を台車に乗せ、人力だけで運びながら、約1ヶ月かけて歩いた。碑石は現在広島市の世界平和記念聖堂に設置されている。リングヒロシマの代表 中村朋子が共同代表をした。

らのキーワードのどれかが入っている本を検索した。加えて本の中に広島または長崎の被ばくに関する章が含まれている本もリストの対象にした。

また内容に関しては、原爆を投下した側の論理で書かれた本も入れることとした。広島と長崎への原爆投下を正当化する意見はいまだに根強くあり、議論が続いている。例えば、被爆 50 年には米国ワシントンの国立スミソニアン航空宇宙博物館で予定されていた原爆展が米国議会や在郷軍人会などの圧力で大幅に縮小されたことをきっかけに、広島と長崎への原爆投下の是非について米国内で激しい論議を引き起こし、多くの本が出版された。

世界中に存在する原爆文献を2つの範疇に分けると、1. 原著が日本語で書かれ、外国語で出版された本、2. 原著が日本語以外で書かれた本一である。後者をさらに2つの下位範疇に分けると、2-1. 日本語版または英語版がある本、2-2. 現地の著者が現地の言語で書き、日本語版も英語版もない本一である。私たちの手に余るのは、現地の人々が現地の言語で書き、日本語版も英語版もない本の内容確認だ。そのために、「多言語文献協力者チーム」(The Bibliography Development Team)を作った。以下は、メンバーの役割と担当言語である。

編集担当： NAKAMURA Tomoko and Urszula STYCZEK

英文校正： Nancy MEYER

監修者： Aloysius KUO (医学), Donald LATHROP (プロジェクト計画), Richard MINEAR (文学), and Raymond G. WILSON (科学)

IT コンサルタント： OKUL JP

多言語協力者:

アラビア語： Maher ELSHERBINI, Motaz SABRI, and Abdelghani TORCHA

中国語： KOGE Yuko

デンマーク語： Emil JOHANSEN

オランダ語： Menkel JONKERS

英語・日本語： NAKAMURA Tomoko and Urszula STYCZEK

フランス語： Christian LE DIMNA

ドイツ語： TAKEMOTO Makiko

現代ギリシャ語： SATO Rieko

現代ヘブライ語： IGO Tomoyasu

ハンガリー語： Monika SZIRMAI and Agota DURO

インドネシア語： Syahrur MARTA

イタリア語： Francesco COMOTTI, KUNISHI Kosuke, and Fr. Domenico VITALI

韓国・朝鮮語： LEE Young-hwa and JANG Min-ho

ノルウェー語： Emil JOHANSEN

ペルシャ語: YOSHIMURA Shintaro and Isooda AJDARI

ポーランド語: Urszula STYCZEK

ポルトガル語: NAKAGAWA Cristiane Izumi and Matheus NISHIDA

ルーマニア語: Carmen Sapunaru TAMAS

ロシア語: HASHIMURA Masumi and Urszula STYCZEK

シンハラ語: Thalangalle SOMASIRI

スペイン語: FUJISAKA Yoko

スウェーデン語: Dante FERMIN

タイ語: Pornnapa LEVI ALVARES

トルコ語: OTSUKA Ayako

はじめに、監修者について説明したい。医学の部門の監修を担当した Aloysius KUO (郭芳村) 氏は、台湾出身、米国在住の医師。戦前日本に在住し、長崎の原爆で当時長崎医大の学生だった兄を亡くした。戦後渡米し、これまでに2冊の原爆医療関係の翻訳書がある。

1. Nagai, Takashi; translated by Aloysius F. Kuo; edited by Fidelius R. Kuo. *Atomic Bomb Rescue and Relief Report: Report to the President of Nagasaki Medical University Regarding Activities of the 11th Medical Corps, August to October, 1945.* Nagasaki: Nagasaki Association for Hibakushas' Medical Care (NASHIM), 2000. 永井隆, 朝日新聞社編『長崎医大原子爆弾救護報告』朝日新聞社, 1970.

2. Raisuke Shirabe; translated by Aloysius F. Kuo; edited by Fidelius R. Kuo. *A physician's diary of the atomic bombing and its aftermath.* Nagasaki Association for Hibakusha's Medical Care, c2002. 調来助『長崎医科大学原爆被災復興日誌』長崎大学医学部原爆復興五十周年医学同窓記念事業会, 1995.

プロジェクト計画のアドバイザーである Donald LATHROP 元平和学教授 (米国マサチューセッツ州バークシャー・コミュニティカレッジ) は、原爆文献の調査研究に関して中村と35年以上情報交換をしてきた。日本人のボランティアが米国の家庭に滞在し、広島と長崎の被爆の実相を伝えるプロジェクト、ネバーアゲインキャンペーン(Never Again Campaign: NAC)の創始者である。

Never Again Campaign-Berkshire Community College:

<http://www.berkshirecc.edu/forms/NeverAgainCampaign.pdf>

文学の部門の監修者 Richard MINEAR 氏は、米国マサチューセッツ州立大学アマーフト校名誉教授 (歴史学) で、原爆文学研究に関する著書でも世界に知られている。

1. *Black Eggs.* Translated with an introduction and notes by Richard Minear, Center for Japanese Studies, University of Michigan, 1994. 栗原貞子の詩集『黒い卵』の英訳と解説。
2. *Hiroshima: Three Witnesses.* Princeton: Princeton University Press, 1990. 広島の前爆作家 (原民喜、峠三吉、太田洋子) に関する評論。
3. *Through Japanese Eyes.* New York: Center for International Training and Education,

1994. 17世紀から現代までの日本社会を分析。「広島と長崎」の章で、峠三吉と栗原貞子の自身の手による訳詩を紹介している。

科学部門の監修を担当する Raymond G. WILSON 米国イリノイ・ウェスレイアン大学名准教授は、物理学者として米国の理科教師を対象に核兵器廃絶に関する研修プロジェクトを実施してきた。著書に、*Nuclear War: Hiroshima, Nagasaki, and a Workable Moral Strategy for Achieving and Preserving World Peace*. Author House, 2014 がある。

次に、32人の多言語協力者の紹介をしたい。海外在住者は14人、その他は日本に在住する外国人、または日本人である。職種は、現職または退職した大学教員や研究者、大学院生、留学生、ひろしま通訳ガイド協会(Hiroshima Interpreter and Guide Association, HIGA)に所属する中国語、ロシア語、スペイン語の通訳などである。メンバーは、仏教、カトリック、プロテスタント、クエーカー、聖公会、イスラム教の他、世俗的人間主義(Secular Humanism)や無宗教など、多様な宗教的背景を持つ。また、二人の聖職者も含まれる。カトリック幟町教会のドメニコ ヴィターリ神父(イタリア語担当)と、スリランカ国シヤム派西部州監寺のタランガッレー ソーマシリ僧正(シンハラ語)である。ヴィターリ神父が所属するカトリック幟町教会には、世界平和記念聖堂があることで知られる。この聖堂は、民族や宗派を超えて世界中から届いた寄付を基に建設された。1950年(昭和25年)8月6日に着工し、1954年(昭和29年)8月6日に竣工した。2006年(平成18年)7月5日には国の重要文化財に指定されている。被爆60年(2005年)のStonewalk Japan 2005で異宗教・多国籍ボランティアが運んだ碑石は、聖堂の正面入り口近く、1981年に聖堂を訪れたローマ教皇ヨハネ・パウロ2世の銅像の隣に設置されている。

シンハラ語担当のタランガッレー ソーマシリ僧正は、スリランカのサーマ マハ ヴィハーラーヤ(平和寺)と日本国内にある唯一のスリランカ寺院 蘭華寺(千葉県香取市)で兼任をしている。宗教者として原爆文献に造詣が深く、『はだしのゲン』のシンハラ語翻訳者である。



当プロジェクトの多言語協力者の中には、『はだしのゲン』の翻訳者が全部で三名いる。ソーマシリ僧正のほか、マーヒル エリシリビーニー教授(カイロ大学)はアラビア語に、総括編集者のウルシュラ スティチェックはポーランド語に翻訳出版している。(添付記事参照のこと)

3. 活動の実施経過

2015年11月から、多言語で読む広島・長崎の会は、国外の著者が現地の言語で書き、日本語版も英語版もない本の検索をしてきた。出版はされたが、広く知られることなく埋

もれたままの本を探すために、34名の多言語協力者と共に調査を進めてきた。その結果、2016年11月現在、69言語、2000冊以上の本をリストアップすることができた。以下は時系列による活動記録である。

2015年11月から 向こう一年間の活動は、日本人以外の著者が自分たちの言語で書き、出版した本の情報をできるだけ多く見つけて文献リストに入れることとした。 文学の部門担当のウルシュラ・スティチェックは、原民喜が残した資料を保管する原時彦氏宅で、調査を続ける。また、できるだけ原本にあたることを目標にして、原爆資料館情報資料室はじめ、広島の大学図書館で多言語協力者と連携しながら本の検索を続ける。長崎原爆資料館図書室にも行き、大学間相互貸借制度を利用して県外の他大学所蔵の本も入手する。尚、原爆資料館が保有する外国語で読める文献3355冊は、すべて内容を確認した。そのうち原爆文献と特定できる本だけを当プロジェクトのリストに入れた。

2016年1月 会を「リングアヒロシマ」に改名した。異なる言語の使用者にも理解し易い名前にするためにメンバーで議論を重ねた結果である。また、元の会の名称を生かすために、データベースのタイトルを「**Hiroshima and Nagasaki: A Multilingual Bibliography**—多言語で読む広島・長崎文献」とした。これまでに集めた資料を基に調査成果を公開することを目指して、文献リストの作成作業を継続する。

2016年2月11日 中村宅で中村とスティチェックが、読売新聞広島支局岸下紅子記者の取材を受ける。

2016年2月18日 リングアヒロシマの会の編集者、中村とスティチェック、マーヒル、ソーマシリは『はだしのゲン』翻訳者の集いに参加した。8つの言語（アラビア語、英語、シンハラ語、韓国・朝鮮語、中国語、ベトナム語、ポーランド語、ロシア語）の翻訳者や関係者25人が翻訳や出版上の課題について意見交換をした。スティチェックは、『はだしのゲン』のポーランド語翻訳者として参加した。この会をきっかけにシンハラ語のタランガッレー ソーマシリ僧正が多言語協力者に加わった。
(添付記事を参照のこと)

2016年3月22日 中村宅で中村とスティチェックが、東京新聞特別報道部中山洋子記者の取材を受ける。(添付記事参照のこと)

2016年6月4日 中村宅で中村とスティチェックが、毎日新聞広島支局竹下記者の取材を受ける。

2016年7月1日 世界の言語で原爆文献を検索できる無料 Web サイトのお試



し版公開を、7月1日から開始した。

この件に関し、同日広島市役所記者クラブで記者会見をした。リングヒロシマの出席者は、中村朋子（代表者、編集者）・ウルシュラ スティチェック（編集者）・ドメニコ ヴィターリ（イタリア語担当）・藤村寛（IT コンサルタント）であった。

2016年10月21日 リングヒロシマのウェブサイトに、ウルシュラ スティチェックの論文2点を公開した。

2016年10月26日 国際ソロブチミスト平和広島のクラブ賞を受賞した。国際ソロブチミスト平和広島は、1988年から地域社会や、国内外で女性と女兒の生活の向上をめざし1988年から奉仕活動をしている広島の団体である。クラブ賞贈呈式には、当会の代表中村朋子がゲストとして招かれ、私たちの活動について発表をした。

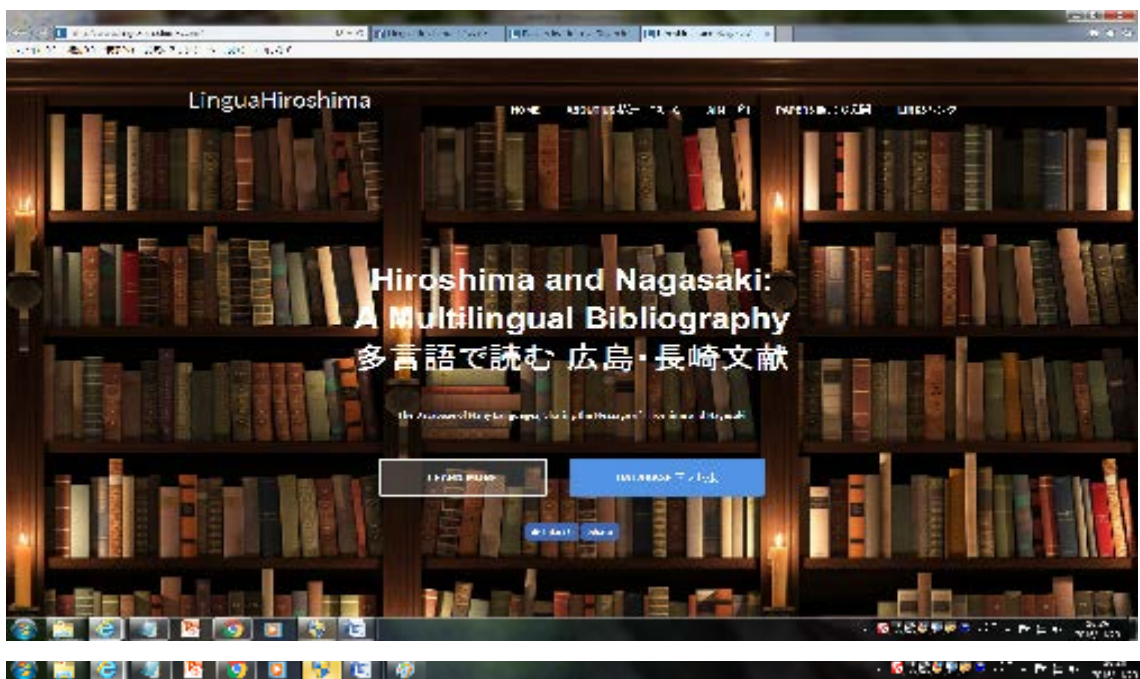
2016年11月20日 リングヒロシマのウェブサイトに、ウルシュラ スティチェックの論文2点を追加公開した。

現在は、文献リストの追加と校正を続けている。

4.活動の成果

1. プロジェクトの進捗状況に関して

1-1 ウェブサイトを立ち上げ、検索エンジンのお試し版をアップした。



1-2 ウェブサイトで、ウルシュラ スティチェック（注2）著の論文を公開した

注2 ポーランド出身で広島在住25年。ワルシャワ大学日本学科卒業。2005年、学位論文「人間存在の不安—収容所文学と原爆文学」をまとめ広島大学で博士号を得る。ジョン・W・トリー特著『グラウンド・ゼロを書く—日本文学と原爆』の共訳者の一人。原爆文学や収容所文学について多くの小論を発表している。

当プロジェクトの総括編集者で、文学、児童文学、体験記の分野を担当するウルシュラスティチェック著の主要論文4点を、会のウェブサイト公開した。論文の題目と概要は以下のとおりである。

1. Reading Atomic Bomb Literature in Foreign Languages – An Introduction of Studies and Works of Tamiki Hara, Sankichi Toge and Sadako Kurihara

多言語で読む「原爆文学」 – 原民喜・峠三吉・栗原貞子の作品と関連の評論 –

「原爆文学」を代表する三人の作家、原民喜、峠三吉、栗原貞子の作品と関連の評論が20の外国語^(注3)で出版されていることが分かった。被爆70年を機に実施した調査研究の成果である。その調査の狙いと過程を述べ、具体的にどの作家と作品がどのような言語で翻訳されたか、個々に紹介した。スティチェックと中村が所属する広島文学資料保全の会は、上記3人の被爆作家の手書き草稿をユネスコの世界記憶遺産に登録要請をするために、広島市と共同で2017年に再度申請をする予定にしている。その際の参考資料としてこのリストが活用されることを期待している。

2. Works of Selected Authors and Their Studies 日本人作家16人の作品と関連の評論

日本人作家16人(阿川弘之/原民喜/林京子/堀田善衛/井伏鱒二/井上ひさし/井上光晴/栗原貞子/村井志摩子/小田実/大江健三郎/大田洋子/佐多稲子/正田篠枝/峠三吉/津久井喜子)の作品と関連の評論が27の外国語で出版されていることを明らかにした。

3. A-bomb Victim, Kurihara Sadako: The Transformation from Anarchist Poet to Peace Essayist 被爆者 栗原貞子 - アナーキスト詩人から平和問題随筆家への転換

被爆体験をきっかけに、戦後の栗原貞子の文学的関心が、平和活動に転換した経緯について、長女栗原真理子氏提供の未公開資料を加えて、実証した。

4. 原民喜、被爆体験作家：戦前の人間像

この小論では、民喜が戦前に書いたいくつかの作品を通じて、彼の人間存在の不安やキリストの神の意識や予言的な発想などに注目する。戦前民喜が、想像力を使って不思議な世界を語った多くの短編小説は、ヒロシマ以降、想像力を超えた現実についての作品となった。

1-3 文献リストの作成

データベースの名称：Hiroshima and Nagasaki: A Multilingual Bibliography 多言語で読む広島・長崎文献

注3 本稿では、原民喜・峠三吉・栗原貞子の作品と関連の評論は、日本語以外に、アラビア語/中国語/チェコ語/英語/エスペラント語/フィンランド語/フランス語/ドイツ語/ヒンディー語/ハンガリー語/イタリア語/韓国語/マラーティー語/ポーランド語/ロシア語/セルビア語/スロヴァキア語/スロベニア語/スペイン語/スウェーデン語(20言語)で出版されていることを明らかにした。

分野：文学、児童文学、体験記・回想記、写真集・画集、研究・報道

これまでに集めた本の情報：日本語文献の他に 68 の外国語で出版された 2442 冊分 (2016 年 11 月 30 日現在)

(言語リスト) アフリカーンス語/ アルバニア語/ アラビア語/ アルメニア語/ バスク語/ ベンガル語/ ボスニア語/ ブルガリア語/ ビルマ語/ カタルーニャ語/ 中国語簡体字/ 中国語繁体字/ クロアチア語/ チェコ語/ デンマーク語/ ダリ語/ オランダ語/ 英語/ エスペラント語/ エストニア語/ フェロー語/ フィリピン語/ フィンランド語/ フランス語/ ガリシア語/ グルジア語/ ドイツ語/ ギリシャ語/ グジャラート語/ ヘブライ語/ ヒンディー語/ ハンガリー語/ インドネシア語/ イタリア語/ 日本語^(注4)/ カラーリスト語/ クメール語/ 韓国・朝鮮語/ ラオ語/ ラトビア語/ リトアニア語/ マレー語/ マラーティー語/ モンゴル語/ ネパール語/ ノルウエー語/ パンジャブ語/ パシュトー語/ ペルシャ語/ ポーランド語/ ポルトガル語/ ルーマニア語/ ロシア語/ セルビア語/ シンハラ語/ スロバキア語/ スロヴェニア語/ スペイン語/ スワヒリ語/ スウェーデン語/ タジク語/ タイ語/ トールワリー語/ トルコ語/ ウクライナ語/ ウルドゥー語/ ウズベク語/ ベトナム語/ ウェールズ語

2. 広報活動に関して

2-1 2015 年 2 月 23 日掲載の読売新聞を初めとして、マスコミの取材を受けた。東京新聞、中日グループ (中日新聞、北陸中日新聞、琉球新報)、毎日新聞、朝日新聞、中国新聞に掲載。(主要記事添付)

2-2 ウェブサイトの他に SNS (Facebook) を利用し、英語と日本語で新しい情報を提供している。詳しくは、以下の URL を参照のこと：

<https://www.facebook.com/linguahiroshima/?pnref=story>



注 4 日本語版については、外国語に訳されている本、または外国語の原著が日本語に訳されている本のみをデータベースで紹介する。

Facebook にアップした主要記事一覧：

<2016 年>

7月2日 New search function available! 文献検索機能が追加されました。

7月3日 Chugoku Shimbun and Asahi Shimbun reported on LinguaHiroshima yesterday.
中国新聞・朝日新聞は昨日、リングアヒロシマについて報じました。

7月27日 We renewed the bibliography development team members' name list. It may look confusing at first glance, but we hope you will understand what multiculturalism looks like. About Us を更新しました。氏名の表記が一律ではありません。多文化共生を表しているのご理解いただければ嬉しいです。

<http://www.linguahiroshima.com/about-us/>

9月18日 We were excited to find exhibition catalogues of Iri and Toshi Maruki's Hiroshima Panels in various languages such as English, Italian, French, Dutch, German, Czech, Hungarian, and Russian published as early as the 1950s. These three books by Toshi Maruki, Setsuko Ozawa (an art critic), and Yukinori Okamura (a curator of Maruki Gallery for the Hiroshima Panels) offer ample information about the panels' eight-year journey around the world, which included visits to socialist countries such as China, USSR, Czechoslovakia, Romania, and North Korea. 丸木位里・俊の「原爆の図」展の外国語カタログが次々と見つかるではありませんか。しかも1950年代のもの。その経緯については、丸木俊のエッセイ、小沢節子さん、岡村幸宣さんの本に助けられました。点が線になり動画になって当時のことを想像できました。こうして絵は国内だけでなく世界中を旅していたのですね。

10月3日 LinguaHiroshima received 32 books and six copy editions from Dr. Aloysius Kuo, retired medical doctor living in the U.S. and advisor for the medical section of our database. All the books are valuable and most of them are first editions concerning radiation medicine. We plan to donate them to a library after we finish working on them. Dr. Kuo has translated two books on atomic bombing. He lost his elder brother, a student of the Nagasaki Medical College, at the time of Nagasaki bombing. 台湾出身、米国在住の郭芳村医師から30冊の本と6冊の医学論文フォルダーが届きました。本はほとんどが初版本のハードカバー。貴重なものばかりです。参照後の寄贈先を検討中です。郭さんは、長崎原爆で当時長崎医大の学生だった兄を亡くしました。これまでに2冊の原爆医療関係の翻訳書があります。

10月20日 The Hiroshima Peace Memorial Museum Library received all the books and six copy editions donated by Dr Aloysius Kuo. This month we added Georgian to the language list to find Georgian edition of "Madame Curie" , a pioneering physicist who coined a term, radioactivity. Written by Curie's daughter, Eve Curie, this book has 38 language editions. So far we have found, therefore, 70 languages in which books

concerning atomic bombings on Hiroshima and Nagasaki are available. When we think about Hiroshima and Nagasaki, why do we have to trace back to Marie Curie? This book explains the history to us. 郭芳村医師からの30冊の本と6冊の医学論文フォルダーはすべて、広島平和記念資料館情報資料室での保管が決まりました。リングヒロシマは、グルジア語の『キュリー夫人伝』を見つけました。この本は38の言語で読むことができます。これでリングヒロシマのDBは全部で69の言語になりました。ヒロシマ・ナガサキ文献になぜマリー・キュリーを入れねばならないか—以下の本に詳しいです。日本語訳がないのが残念です。

Preston, Diana. *Before the fallout: from Marie Curie to Hiroshima*. New York: Walker & Company, c2005.

10月21日 Papers by Urszula Styczek 論文の公開

11月18日 Soroptimist International of Heiwa Hiroshima offered a prize and a certificate for LinguaHiroshima's activity on October 26th, 2016. Our project has been supported by the following grants: Hiroshima Peace Creation Fund 2014, 2015, and 2016; Niwano Peace Foundation 2016; Soroptimist International of Heiwa Hiroshima 2016. 2016年10月26日、国際ソロプチミスト平和広島よりクラブ賞を受けました。以下は私たちの活動に対し、これまで支援をいただいた団体名です。ヒロシマ平和創造基（2014・2015・2016年度）、庭野平和財団（2015年度）、国際ソロプチミスト平和広島（2016年度）

5.今後の課題

私たちの活動を報じるこれまでの新聞記事の見出しを時系列に見てもわかるように、作成中のデータベースに収録する本の言語の種類と冊数は日々増加している。2017年3月末までには、現在確認できている2000冊以上の本をコーディングして検索可能なデータベースとしてサイトにアップする作業が残っている。これが2017年度の最大の課題である。

しかし、このプロジェクトは第一歩を踏み出した段階である。ヒロシマ・ナガサキの体験を人類がどう共有してきたかについて俯瞰するための作業はかなりの時間を要し、どの機関も個人もまだ着手していない。

地球上に核兵器が存在する限り、このプロジェクトには終わりはない。新しい本が見つかるたびに、更新を続け、世界に警鐘し続ける必要がある。また、このサイトを世界中の人に利用してもらえるよう、地球規模での広報活動がもう一つの大切な課題である。